



政策研究大学院大学
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE

政策研究院
GRIPS ALLIANCE

政策研究大学院大学(人事院行政官国内研究員)

田中 俊充

Tanaka Toshimitsu

平成16年4月 総務省(近畿管区行政評価局)採用
平成17年4月 奈良行政評価事務所評価監視官付
平成18年4月 政策統括官(統計基準担当)付
統計企画管理官付
平成20年1月 内閣官房行政改革推進本部事務局
平成20年7月 行政評価局総務課
平成21年7月 行政評価局行政相談課
平成23年7月 大臣官房会計課総務係長
平成25年7月 大臣官房秘書課秘書第一係長
(大臣秘書官室)
平成28年4月 行政管理局主査 併任 内閣官房内閣人事局
(外務省・防衛省担当)
平成30年4月 行政評価局上席評価監視調査官
(内閣、総務等)
令和2年4月 現職

政策研究大学院大学とは
政策研究を専門とする大学院で
1997年に国立大学として設立
されました。世界中から未来の
政策リーダーや研究者が集まる
国際的な政策研究の拠点です。

多様な経験から得られるもの

Academicな模索を通じて

私は、人事院の行政官国内研究員制度を活用して、政策研究大学院大学(GRIPS)に在籍しています。大学院では、各府省が展開する政策に対する検証や評価に関する活動(政策評価)を対象とした研究を行っています。「政策」という言葉からまず連想されるものはどういったものでしょうか。多くの行政官からすれば、それは、その関係法令や予算、企画立案、執行といったものであるかもしれません。しかし、国民や社会にとっては、その政策がそもそも必要なのか、効率的なのか、他の政策と比べて優先されるものかなどの視点も重要であると言えます。また、我々行政官には、これらを国民や社会に説明していく責務があります。総務省は、このような政策の検証等に関する制度を所掌し、横断的な観点から、各府省の政策を統一的・総合的に検証等する機能を有しています。研究では、これらの機能をより有効に機能させるための方策を模索し、今後の実務に反映させていきたいと考えています。

多様な「経験」と多様な「視点」

これまで総務省では、他省庁への出向経験も含め様々な業務に携わらせていただきました。まず挙げられるのが、総務大臣秘書官室での経験です。総務省は、旧総務庁、旧自治省及び旧郵政省が統合して設置されたため、バラエティ豊かな業務を担っています。大臣秘書官室では、大臣による指示の下、緊張感を強いられる毎日でしたが、総務省がまさに「1チーム」となり、政策のトップマネジメントの現場たる場所で得られた経験は、総務省の多様性を認識するとともに、今後の糧となりました。また、内閣官房への出向を通じて、他省庁の機構や定員の審査業務に携わらせていただく経験も得ました。総務省のみならず、他省庁が推進する政策の内容や現場について学び、他省庁とともに今後の組織の在り方や未来を考えるとといった経験は、他では得られない経験だったと思います。これらの経験を通じて得られた多様な視点や人脈は、私にとっての大きな財産となっています。

Q 就職活動を行う人に対するメッセージ

A 就職活動を行う上では、様々な情報が飛び交い、ゆえに、従来の自身の考え方や方向性が変化したり、迷いが生じることもあるかと思います。それはそれで良いと思います。ただし、可能であれば、自身の目で現場を見て、話しを聞き、その雰囲気を体験してください。人生は紆余曲折。就職はゴールではなく、人生の新たな序章に過ぎません。長い人生の一通過点として、自身の信念と向き合い、成長できると思えるような職場に巡り合えることを祈念しています。

Q 入省後、成長したと思うこと

A 既存の社会や制度の在り方を前提とした考えから、その前提自体がそもそも適切なのかといった考えに基づいて、既存の社会と対峙できるようになったかと思います。そのためには、対峙するに相応しい知見や経験も必要ですが、それは多分に、これまでの職務経験の中で得られた「常識を疑う」という教えによるものだと考えています。

PRIVATE TIME

これまでのコロナ禍で、好きなアウトドアは我慢せざるを得ず、インドアかつ子どもと一緒に楽しめるものということで、ブロックの組み立てにのめり込んでいます。大学院では、4月の入学以降、夏までオンライン中心の授業であったことから、気晴らしのためにも子どもと一緒に遊ぶのは、良い気分転換になります。



オックスフォード大学(人事院行政官長期在外研究員)

佐藤 多恵

Sato Tae

平成26年 4月 総務省(情報通信国際戦略局国際協力課)
採用

平成28年 7月 大臣官房企画課

平成29年 7月 情報流通行政局郵政行政部郵便課
国際企画室令和 2年 4月 情報流通行政局郵政行政部郵便課
国際企画室国際企画係長

令和 2年 7月 現職



変化を力に

柔軟に革新し続ける

国際社会はパンデミックで大きく揺れ動き、課題が山積しています。世界が抱える課題を国際機関や各国外交を通じて解決できるよう、母国そして世界への貢献に熱い思いを持った学生達と議論しています。彼らの柔軟な発想に刺激を受けながら、国際法や国際政治理論といった学術的観点だけでなく、各国利害の兼ね合いといった実践的観点も学ぶ日々です。2020年は感染対策のため、対面授業の実施が困難になりましたが、超少人数グループに分けて授業を実施するなど、オックスフォードの伝統であるチュートリアル(指導教員との直接議論)は健在です。伝統を守りつつ、新しい技術や制度を積極的に取り入れて柔軟に対応していく姿勢に、この大学が900年近く存在している理由を垣間見ている気がしています。海外に長期で滞在するのは初めての筆者にとって、勉強だけでなく、イギリスでの生活の一つ一つが新鮮で、それら全てが自分の価値観を広げていると確信しています。

可能性と創造性の宝庫

情報通信分野は、今後の可能性を秘めた分野です。留学中は、「異分野×ICT」の研究を行っている学生の話聞く機会も多く、改めて情報通信の幅の広さを実感しています。こうした情報通信分野を扱う総務省での業務は、日本に貢献するための仕事であることはもちろん、国際社会に貢献することに繋がる仕事でもあります。2020年のパンデミックでは、国際機関を含め多くの機関が業務をオンラインに移行しました。世界のデジタル化が加速し、情報通信の重要性が一層増す一方で、デジタル・デバインド問題やセキュリティ問題といった情報通信に関する制度的な課題が浮上ってきています。こうした国際的な課題に対する制度設計は、日本だけではなく、多国間の枠組みを通じた協調が必要です。新たな領域への創造的な広がりを目指しつつ、国際的な制度も求められる。そんな情報通信分野の発展に携わることができるのは、総務省ならではの魅力だと感じています。

PRIVATE TIME

イギリスで一番古い大学の街、オックスフォード。中世の佇まいが残る街に世界から集まる学生達は口を揃えて、日本は行ってみたい国No.1、日本のアニメや食文化(特に寿司)が好き、と言ってくれます。世界から日本が愛されているのを嬉しく思うと共に、今後も世界の中で「良い日本」であり続けるように貢献したいと感じます。

Q 総務省(情報通信行政分野)を志望した理由は何か?

A 総務省を選んだ理由は「人」です。情報通信という変化の激しい分野で柔軟に対応している人が多いと感じています。過去の業務は、周りの方々に恵まれて乗り越えることができました。こうした人々が醸成する柔軟な環境のお陰で、留学という貴重な機会を得ることができたことに大変感謝しています。実務を経た上での留学は、総務省での多様な経験を結びつけて発展させることに繋がっています。どんな経験も無駄になりません。帰国後は、ダイナミックに変化する社会をより良くしていけるよう、留学で得るあらゆる学びを活かしたく、総務省にはそうした場所があると確信しています。

Q 10年後はどんな仕事をしていきたいですか?

A 日本を含め世界各国が、様々な新しい課題に直面しています。前例踏襲の解決策では済みません。留学では、改めて「思考」の重要性を実感しています。日々の業務は動きが早く、目の前のことに負われてしまいがちですが、思考停止することなく、日本に留まらず、世界に貢献していきたいです。

